

お供え物



納骨堂の掃除をさせていただくなかで、それぞれの納骨壇には、様々なお供え物やお飾りがありました。今回は、納骨堂でのお供え物のお話。たいていの場合、お供え物には、お茶やお菓子、たばこ、ビールに焼酎など、先だった方が好きだったのかな？ と思えるようなものが供えられていることが多いようです。

亡き方を偲ぶ、お供え物やお飾りの形はいろいろとあるもので、「家族写真」が飾られていたり、お孫さんから故人に向けた「手紙」、生前に残された「手芸の人形」など。それぞれの納骨壇には、故人を偲ぶ個性豊かなお供えやお飾りがあります。

そんななか、私が良いなと思ったひとつの形は、家族や親戚、友人がお参りに来たときに、それぞれのお思いを書き残す「一冊のノート」でした。いつ、誰がお参りに来たのか記したり、交換日記のように、先だった方への思いや近況の報告をしているそうです。家族や兄弟が、本人の知らないところでお参りに訪れていたという事実が形となり、思いとなつて残っていくのがいいですね。

お供え物のなかで、残念な形も時折見受けられます。それはお供えものがそのまま、ゴミ箱に棄てられていることを目にするときです。もったいないことです。できる限り、お供えしたものは持ち帰り、最後までいたたく、ということをお心にかけて欲しいと思います。

亡き方が好きだったものを供えるというのも一つの形かもしれませんが、今を生きる家族が好きなものをお供えても構いません。

ある家庭は、お孫さんが好きなお菓子を納骨壇にいつも供えてあるそうです。お参りにくると、そのお菓子をお一つ持って帰っていいように、子どもさんが嬉しそうにお参りにくる風景が目に見えます。子ども達に、亡き方を偲ぶお墓参りの習慣を大切にしたいと願う、親の思いがこもった素晴らしいお供え物だと思いました。

皆さんは、納骨堂（お墓）や仏壇にどのようなお供え物をされていますか？ 面白いお供え物やお飾りをしている習慣があれば、また教えてください。